

2021年度 日本体育・スポーツ・健康学会 体育哲学専門領域 第1回 定例研究会

日程：2021年6月5日（土）13：00～16：05

オンライン(ZOOMを予定)による開催

注意事項：閲覧情報はメーリングリストで配信します。メーリングリストへの登録をお願いします。会員以外が閲覧する場合は、会員から研究担当にご連絡ください。また参加者は当日実施する出席調査(GoogleFormを予定)に記入をお願いします。

【プログラム】

13：00 代表挨拶 関根 正美（日本体育大学）

13：05 研究発表① 石垣 健二（東海学園大学）

『身体教育と間身体性（不昧堂出版/2020）』：

概要とその周辺：身体的な「われわれ」の獲得としての学校体育

13：50 研究発表② 水島 徳彦（東海大学大学院）、阿部 悟郎（東海大学）

体育・スポーツ哲学において倫理学を「応用」するとは：

ジープの「具体倫理学」の概念に着目して

14：35 休憩

14：45 研究発表③ 広瀬 健一（法政大学）

コーチの理想言語としての＜指導言語＞の指定に向けた試論：

コーチング場面の事例をもとにして

15：30 応用（領域横断）研究部会 報告

高橋 浩二（長崎大学）、高尾 尚平（日本体育大学）、田井 健太郎（群馬大学）

林 洋輔（大阪教育大学）、田中 愛（明星大学）、深澤 浩洋（筑波大学）

応用（領域横断）研究部会のミッションと体育哲学専門領域との関わり

16：00 副代表挨拶 深澤 浩洋（筑波大学）

【発表者氏名、タイトル、概要】

石垣 健二

『身体教育と間身体性（不昧堂出版/2020）』：

概要とその周辺：身体的な「われわれ」の獲得としての学校体育

【概要】

本発表では、拙著『身体教育と間身体性-道德性の礎として-（不昧堂出版/2020）』について概説するとともに、刊行までの周辺状況について報告する。また、そのうえで最終的に、身体的な「われわれ」の獲得（間身体性の教育）として学校体育を位置づけたい。身体的な「われわれ」とは、「身体的な感じ」としてのわれわれという認識であり、それが人間にとって重要な道德性の礎となる。現在の学校体育は、形骸化した知識や技能の獲得あるいは思考・判断の育成ばかりでなく、身体的な「われわれ」の獲得に向けて変革がもたれよう。

水島 徳彦（東海大学大学院）、阿部 悟郎（東海大学）

体育・スポーツ哲学において倫理学を「応用」するとは：ジープの「具体倫理学」の概念に着目して

【概要】

本発表は、応用倫理学として展開されてきた「スポーツ倫理学」そのものを批判的に検討することを目的とする。

体育・スポーツ哲学の研究領域において、スポーツ倫理学は基底詞としての「倫理学」と限定詞としての「体育・スポーツ」という関係から語られてきた。そこで、これまでの体育・スポーツと倫理学に関連する蓄積について、それらの研究の妥当性を追跡しつつ、倫理学が体育・スポーツについて言及し得る可能性と限界について、ジープ, L. の「具体倫理学」の概念をもとに検討する。

広瀬 健一（法政大学）

コーチの理想言語としての<指導言語>の措定に向けた試論：コーチング場面の事例をもとにして

【概要】

本発表においては、発表者が現在関わっている運動部活動において、コーチが指導言語を使用する場面を事例として挙げる。事例をもとに、「ある運動の動作を導くための理想的な指導のためのコトバ」＝<指導言語>の存在について考察を試みる。本発表では、理想言語としての<指導言語>の存在を措定した場合、そのコトバはどのように示されるのかについて、コトバの「意味」と「意義」をもとにして検討を行いたい。

高橋 浩二（長崎大学）、高尾 尚平（日本体育大学）、田井 健太郎（群馬大学）、林 洋輔（大阪教育大学）、田中 愛（明星大学）、深澤 浩洋（筑波大学）

応用（領域横断）研究部会のミッションと体育哲学専門領域との関わり

【概要】

本報告では、応用（領域横断）研究部会の課題や活動内容等を紹介する。本研究部会は、スポーツ文化・学校保健体育・競技スポーツ・生涯スポーツ・健康福祉の5つの部会から構成されている。この区分は、専門領域を横断して取り組むべき実践的（社会的）課題に応じて設けられたものである。各部会では、学会大会等における領域横断シンポジウム及び研究発表を企画・運営している。当日は、1年目のシンポジウムについても報告する。

【問い合わせ先：研究担当】

森田 啓 hirakumorita@ouhs.ac.jp

高橋 徹 t.takahashi@okayama-u.ac.jp